

カラハナソウ中国地方で発見 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: *Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. Found in Chugoku District

カラハナソウは中部地方では珍しくないものであるが、近畿以西では見られない植物であった。ところが1993年に徳島県の黒滝山で発見され、珍しい分布として報告された。(山中二男. 植物研究雑誌 60: 179, 1994). 最近羽賀 実氏が岡山県新見市で発見した。中国地方では初めての発見であろう。

カラハナソウと、大陸に分布した栽培されるホップとは変種関係とされているが、よく似ている。ホップは葉は中ほどまで3裂する傾向が強く、基部が浅い心臓形か戟形であることが多いが、カラハナソウでは葉は3裂しないことが多く、基部は一般に深い心臓形であることが多い。ホップにも葉が深く裂けず、基部が深い心臓形のものもあり、カラハナソウでも深く3裂するものもある。したがって両者の明瞭な区別は困難であり、変種関係は成り立たないのではないと思う。しかし

上述の傾向は存在し、岡山県のものはカラハナソウに該当する。

大陸から日本の西部を飛び越して、本州中部に分布する一群の植物には、ザリゴミ、ヒメトラノオ、ハナハタザオ、アサマフウロ、オオヤマカタバミ、ハヤザキヒョウタンボクなどがある。これらは分布の中心は中部地方にあるけれど、中には中国地方にも少数の個体が分布しているものもある。カラハナソウもその一例となる。

***Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim.**

Hab. Pref. Okayama, Niimi City 新見市, Sugou 菅生, Nishitani 西谷, edge of forest beside stream (M. Haga, Sept. 23, 1999, TI).

This is the first record from Chugoku District.

(東京都中野区 [redacted])

新刊

□ (財) 千葉県史料研究財団 (編): 千葉県の自然史 本編4 千葉県の植物 1 xix + 837 pp. 1998. 千葉県.

全51巻にまとめて出版される予定の千葉県史のうち12巻が「千葉県の自然史」となっており、植物に関するものとしてはその中に「千葉県の植物1」「千葉県の植物2」「千葉県植物写真集」「千葉県植物誌」の4巻がある。「千葉県の植物1」の構成は、第1章 千葉県の細菌・ウィルス、第2章 千葉県の菌類の生態、第3章 千葉県の菌類、第4章 千葉県の藻類の生態、第5章 千葉県の藻類、第6章 千葉県のコケ類の生態、第7章 千葉県のコケ類となっている。千葉県産植物に関する百科事典という感じの本に仕上がっており、解説は比較的平易で多数の写真や図が付けられているため、専門外の人にも理解しやすいものである。しかし内容は各分野の最先端の研究者の執筆により、植物学の研究資料

としても十分高度なものになっている。教育・研究に関連する場合はもちろんのこと、地域の住民一人一人にとって身の回りの自然環境を正しく知るといことはきわめて重要である。「千葉県の自然史」のような企画は、日頃の研究成果を一人でも多くの人に理解してもらい役立てて欲しいと願う研究者とそれを知りたいと考える会社の人々との接点として重要な機会である。これを活かして本書をまとめられた関係者に敬意を表し、続巻に期待したい。(邑田 仁)

□ 山下 弘: 奄美の野生蘭 Photo. 50. 1991. 鹿児島県名瀬市佐大熊町 11-28. ¥2,500.

奄美大島に野生する43種のランの写真集である。少し古い出版であるが、地方の個人の出版で、一般にあまり知られていないので紹介しておく。奄美大島には約70種類のランが野生するとされているので、かなりの種

類が収録されているわけである。ランの可憐な花が見事に捉えられているだけでなく、自然の育成状態そのままを写しているの、それぞれの種類の野外での様子がよくわかる。着生ランなどは高い梯をかけて撮影するなど、自然状態でのランの美しさを表現するのに苦心している。その結果が奄美の自然の美しさを表しているの、ランを離れても見ごたえのある写真集となっている。(山崎 敬)

□ Critchley A.T. and Ohno M. (eds.): **Seaweed Resources of the World** vxii + 431 + xii pp. (incl. 11 pls.) 1998. Japan International Cooperation Agency (JICA). soft cover ¥3,000; hard cover ¥4,000.

編者の一人大野正夫博士(高知大学海洋生物教育研究センター長)は先に日本をはじめとする世界の海藻栽培と海洋牧場の現状について11章に亘る英文の書 *Seaweed Cultivation and Marine Ranching* (1993) を編纂して貴重な情報を世界に発信したが、今回、前書同様に南アフリカ Witwatersrand 大学の Critchley 博士の協力を得て、続編ともいべき世界各国の海藻資源をまとめた本を編集した。40章から成り、扱われる国は、(1) アジア: 日本、韓国、中国、フィリッピン、ヴェトナム、タイ、インド (2) オセアニア: ニュージーランド、オーストラリア (3) 地中海: スペイン、ポルトガル (4) ヨーロッパ: ノルウェー、イギリス、フランス、イタリアー (5) 北アメリカ: カナダ、アメリカ (6) 南アメリカ: メキシコ、チリー、ブラジル、アルゼンチン (7) アフリカ: ケニア、タンザニア、ナムビア、南アフリカなど約40ヶ国で、世界の海に面する国のほとんどに及ぶ。各章ではそれぞれの国の海藻植生とフローラ、資源海藻の分布・採取と栽培の状況に次いで、用途別の資源海藻の記述が続く。主な用途は食用、寒天、アルギン酸、カラギーナン、農業用の肥料などであるが、最近各国が寒天、アルギン酸、カラギーナンの藻工業の資源海藻の増産に特に注

目している状況が読み取れる。資源海藻の生産高の年推移の表やグラフが随所に挿入されるので世界の海藻資源の概要を知るにも便利である。執筆者はそれぞれの国のこの分野のリーダー的な人々で、写真入りのプロフィールが巻末に紹介されている。購入先は 781-1164 土佐市宇佐町井尻 194 高知大学海洋生物教育研究センター 大野正夫 FAX: 088-856-0462. E-mail: mohno@cc.kochi-u.ac.jp.

(千原光雄)

□ 舘脇正和、星澤幸子: **食べてわかった昆布パワー** 133 pp. 1999. 北日本海洋センター. ¥700 (税込).

いささか受けを狙ったような題名であるが、学問的に裏づけられた真面目な内容の本で、コンブがもつ物質がどのようにして人の健康保持に役立つかがわかりやすく書かれている。著者の一人、舘脇正和博士は海藻の培養・栄養生理・生活史等の研究で業績を挙げた北海道大学名誉教授であるが、永年苦しんだ大腸ポリープをコンブで完治させた経験から「藻食論」を提唱するようになったという。博士は1日5 grの乾燥コンブの摂取を推奨している。本書では、コンブの粘液中に含まれるアルギン酸やフコイダンなどの物資をパトロール隊に見立て、取り込まれた食物が口、食道、胃、腸、そして肛門にいたる過程で、パトロール隊によりいかによく交通整理され、必要なものはきちんと吸収され、悪いものはパトロール隊がもつ水溶性食物繊維などのほたらきでいかに健全な便として排泄されるか、などについて楽しいイラスト入りで要領よく記述している。本書の前半部にはこのあと食用コンブ9種の植物学的な記述がある。後半部には共著者によるコンブを食材にした簡単な料理20余種が紹介される。前半部の冒頭の舘脇博士と共著者との対談中のコンブによる大腸ポリープ殲滅の下りはなかなかの迫力である。他の藻類についても同様な書の刊行を期待したい。

(千原光雄)